

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 2 月 3 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103452		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グループホームよってきんさい矢賀		
所在地	広島市東区矢賀 6 丁目4-34 電話 (082) 510-5088		
自己評価作成日	令和3年1月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103452-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年1月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

私たちは利用者様の立場に立った優しい対応と、笑顔が見られるような心に寄り添ったケアを心掛けています。町内会に加入し、推進会議や回覧板で町内行事や情報を得ながら地域とのつながりを大切にし生活しています。新型コロナウイルス感染症の為、外出行事はできていませんがホーム内で出来る活動や誕生日会、季節の行事を通し、現在できていることが少しでも継続できるよう支援しています。又、看取り期になった時、利用者、家族の希望を再確認し家庭医とスタッフ全員で協力し、このホームでよかったと思っただけのよう最期まで心を込めてお世話させていただいています。新型コロナウイルス感染症に対しては、定期的な室内の消毒、換気、職員の検温、手指消毒を徹底し、家族の協力を得て面会を控えて頂き対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

地域住民と広く繋がりがある民生委員との出会いから、多くの備品やレクリエーションに使用する材料、野菜等を持ち寄ってくれる地域の方とのネットワークができ、恩恵を受けている。また、集会所として1階部分を地域の方に活用してもらう事で相互に交流し、地域に根ざした事業所づくりを目指している。利用者一人ひとりの能力や人生が尊重された介護サービスの提供に取り組み、入居前の面談、入居時、日々の様子を細かく聞き取り、職員が描く利用者の似顔絵と共に記録に残している。詳細なアセスメントを実施する事により、個別化した、その人らしい具体的な支援に繋がっており、利用者の能力の維持や強みを活かすケアが実現されている。常勤看護師が配置され、看取りの経験も複数あり、終末期の対応や体制を整備している。緊急時は、近隣に住む同法人の職員に対応を依頼でき、協力体制を構築している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	美泉開設当初よりの運営理念をもとに、事業所で年間目標をたて取り組んでいる。毎朝、申し送り時に唱和し共有に努め、半年後に振り返りをし、目標が達成できるよう努力している。	法人理念に基づき、事業所で理念の実践に繋がる具体的な年間目標を定め、半年毎に達成度合いを評価し、軌道修正をしながら確実に実践できるように取り組んでいる。理念は毎日の申し送りや、申し送りノートで共有し、管理者と職員は必要があれば、いつでも個別に話し合いの場を設け、共通の理解が出来るように工夫している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入り、定期的に回ってくる回覧板や運営推進会議で地域の取り組みや行事を知ることが出来ている。今年度はコロナウイルスの為町内会の敬老会が中止になったが、贈答品を頂いたり、地域の方に花壇に花を植えて頂き、利用者として水やりや手入れを楽しんでいる。	町内会に加入しており、回覧板は町内会長が直接事業所に届けてくれる。地域の民生委員の訪問が定期的であり、花壇に花の球根を植えたり、民生委員を通して事業所に訪問してくれる近隣住民との繋がりが増えた。又、地域に集会所がない為、事業所の1階で町内会の会合を行う等の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議や公園での散歩時に尋ねられたことに対して、お答えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度はコロナウイルスの為、外部からの訪問を制限していたため、開催できない月があったが、会議では施設での感染対策やマスクや消毒など不足はないかなど心配して頂いた。コロナウイルスの感染状況に合わせ、町内の活動状況を伺い、参加の予定を立てている。	利用者、利用者家族の参加で会議を行いたかったが、感染症予防の為実施できなかった。家族への会議内容の報告は、面会の為の訪問時や電話などで、口頭で伝える他、担当職員から家族へ送付する手紙に利用者の様子と共に報告している。民生委員の情報により、避難経路の確認が出来た例がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に地域包括支援センターより参加して頂き、日頃の様子や活動状況を伝えている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加している。運営推進会議の議事録は役所の担当課にFAXで送付している。転倒等の事故は随時報告を行い、日頃から連絡を取り協力関係の構築に努力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束排除宣言を掲げ、マニュアルを元に理解を深め日々のケアに取り組んでいる。ベッド柵やベッドを壁につけない事、椅子や車椅子に座りっぱなしにしない事、食事用のエプロンも身体拘束ととらえ、必要最低限としている。	法人で開催される管理者会議で、全事業所の身体拘束にかかわるケース検討会を実施し、適正に対応出来ているか検証を行っている。職員同士が声を掛け合い、見守りの職員がリビングに不在にならないように協働する事で、日中の玄関は開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員全員が研修を受け、お互い注意し合い虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社内研修で学んでいる。必要時には上司に報告相談し、その方に合った支援が出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項説明書や契約書によりわかりやすく説明している。理解し納得して頂けるまで丁寧に説明している。不安や疑問に思われる事はいつでも問い合わせて頂けるよう伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置し面会時に要望等を聞いている。要望があった場合、管理者会議で話し合い、その結果を利用者や家族に伝え改善すべきことは改善している。	玄関に設置した意見箱は、施錠されており、事業所で開ける事はなく、本社へ直接意見が届く事を入居時に利用者と家族に伝えている。利用者、家族からは、直接意見や問い合わせがあり、利用者の誕生日に好きな物を食べさせて欲しいとの要望から、職員で話し合い、芋の天ぷらを提供した例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>申し送りやミーティングで意見を聞く機会を設けている。代表者は職員にいつでも聞けることを入社時に説明している。</p>	<p>代表者は職員の入社時に、いつでも意見を聴く事を説明している。日頃から管理者は職員と風通しの良い関係づくりに努めており、相談しやすい環境が出来ている。代表者と管理者間も、毎日様子の報告を行っている。実際に職員の要望から、他施設の応援に2人体制で行く事になった例がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>研修や勉強会の為に勤務時間の調整を行ったり、資格取得者にはお祝いをし、努力をたたえ他の職員の励みになるよう努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>資格の取得や社内外の研修参加の奨励をしている。参加に伴い勤務の調整を行うなど配慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>市や地域の研修会に参加し他事業所との交流を図り、意見など取り入れるよう努めているが今年度は感染対策の為交流はできていない。</p>		
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前に訪問し、本人や家族と面談しじっくりと話を聞いている。必要であれば何度か訪問し関係作りに努めている。施設を見学して頂き、希望があればお試しに泊まって頂く事もある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前面談や施設見学時に、困りごとや不安ごとを聞き対応しながら、入居にあたっての準備を進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談で得た情報で必要時には、上司に相談し、他のサービスの説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ホーム内の家事や作業を共に行い、ホームで生活する一員であると認識して頂けるよう関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の様子を毎月の手紙で伝え、面会時や外出時などにも近日の様子を伝えながら、在宅時の様子からケアのヒントを得る事もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家具や用品を持参して頂き、馴染みの家具で居室作りをしている。今年度は面会制限があったため、面会はできていないが、電話でゆっくと話をして頂いた。行きつけの病院へは職員が薬を取りに行き様子を伝え、感染予防に努めている。	家族との面会は、時間制限を設け、マスクを着用し、距離を置くか、ドア越しに行っている。自由に外出ができていた頃は、男性利用者は馴染みの理容店へ行き、散髪と顔そりに行っていた。年賀状や、絵葉書のやり取りも出来る利用者は続けている。友人、家族からの電話は取り次いでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事や体操、レクリエーションなどリビングに集まり皆で顔を合わせ行っている。お互いの相性を考え、テーブル席やソファー席を決めている。車椅子利用者に動ける利用者がお茶を運んだり、声掛けが自然と出来るよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	病院への入院時や他の施設入居時には情報提供書で様子を伝えている。物品準備を行い転居後も必要時に家族の相談を受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前面談や見学時に希望や意見を聞き、把握に努めている。入居後も会話や行動から把握に努めている。会話が困難な場合には表情などから思いをくみ取り話し合いを行っている。	入居前から、入居後、日々の関わりの中で得た情報を細かくアセスメントシートに記録し、利用者の本意を知る事、次の行動を考えるように努めている。思いが伝えられない利用者は、ミーティングで職員が話し合い、対応方法を検討し、利用者の反応を見て変更する等の対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式のアセスメントシートを用いて情報収集や共有を行っている。本人、家族、関係者から聞き取りし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、共に生活する中で状況や様子を記録し、アセスメントすることで現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>センター方式でアセスメントをしている。手紙や面会時に様子を伝えながら意見を聞き、家庭医や職員の意見を聞きながら介護計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月毎に計画を見直し、書類を事前に郵送して家族に相談している。環境に馴染めない利用者へ無理強いせず、少しずつ家事を手伝ってもらう事から始め、徐々に積極的に手伝ってくれるようになった例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、個々の生活日誌に生活の様子や体調、気づきなどを記録し介護計画に繋げている。大事なことは申し送りノートに記録し、全職員がより把握できるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>希望があれば通院や入院時、職員が付添、対応している。入院中も家族が困難な場合には洗濯物を届けるなどしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>状況に合わせ、感染予防対策をしながら近所の公園への散歩や遠くからグランドゴルフを眺めるなどしている。以前は近くのスーパーと一緒に買い物に出かけていたが、現在はコロナウイルスの感染予防の為出かけていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前の主治医を希望される場合は継続して頂いている。家庭医に変更される場合には説明し納得して頂いている。定期的に往診を受け、必要時には専門病院を紹介して頂き受診している。</p>	<p>通院時は、必ず職員が付き添い、普段の生活の様子を伝えたり、看護情報を提供している。往診を希望する利用者が多いが、入居前のかかりつけ医に通う事もできる。かかりつけ医を変更する場合は、利用者、家族に説明し同意を得て変更している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日頃の様子を毎日報告している。体調不良時やいつもと様子が違う時には看護師、家庭医と連携し対応している。必要に応じ、受診に付き添っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には職員が付添ホームでの様子を伝えている。今年度は面会が出来なかったため、電話での情報交換をしながら、退院に向けて準備を行った。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に看取りまで行う事を説明している。重度化した場合、本人、家族の意向を確認し、家庭医や看護師と連携し対応している。本人や家族の意向は折に何度か確認し気持ちが変われば、その希望に合わせた対応が出来るよう努めている。</p>	<p>開設から現在まで、看取りは複数の経験がある。常勤看護師を配置し、看取りが想定される場合は夜間の対応方法を定め、声のかけ方や、水分補給の方法を実際に見てもらいながら職員に指導している。夜間、休日については、近隣に住む同法人の職員も応援に駆けつけてくれる体制が整っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>事故発生時マニュアルを作成し、毎年研修している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>避難訓練を年2回行い、避難方法や避難場所の確認を行っている。法人全体で連絡体制をとり、ホームに近い職員が始めに駆けつける事としている。災害時用の備蓄を行っている。地域の方より、推進会議で避難場所の確認や浸水被害についての情報を得ている。</p>	<p>消防署の指導により、毎日、入浴後は浴槽内に湯溜めをし防火用水を確保している。近隣の同法人の事業所と災害時は協力し合う体制を整えており、避難訓練の他、通報訓練や消火器の場所の確認も行っている。食品と水は2階に約3日分の備蓄があり、災害別に具体的な避難場所を定めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	<p>優しい丁寧な言葉がけで対応している。間違いや失敗時には、指摘せずその利用者の思いを代弁しながらフォローしている。特に失禁時には、さりげなく居室や浴室にお連れするなど配慮している。</p>	<p>職員は、入職時と定期的に接遇研修を受ける事ができ、認知症の方への対応方法や言葉遣い、毎月家族へ宛てる手紙の書き方等を学ぶ機会がある。羞恥心の強い利用者の入浴は同性介助で対応し、排泄時はトイレのドアを閉め職員はドアの外で待機するようにし、尊厳を尊重した介助に務めている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。</p>	<p>日々の生活の中で、飲みたいものや食べたいもの、着たい服、したい事など自分で考えて決定出来る場面を設定している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>毎日の日課は、ほぼ決まっているが、その中で自分のしたい事など、体調に合わせて出来るよう支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。</p>	<p>日頃よりその人らしい服装で過ごせるよう支援している。お化粧が好きな方は毎日して頂き、継続できるように声掛けしている。お誕生日会やお正月などの行事に合わせて、皆さん少しおしゃれし、いつもと違う雰囲気を楽しんで頂いている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>季節や行事に合わせた献立を作り、誕生日会にはお好みの献立にし、食事を楽しんで頂いている。皮むきなどの食材準備や調理、盛り付け、片付けなどそれぞれに合った作業を一緒にしている。</p>	<p>栄養バランスが良い献立の食材を業者が届け、利用者全員が準備や片付けに関われるよう、野菜の皮むきや配下膳、味見係等を依頼し、職員と一緒にしている。週に一度、刺身の日があり楽しみの一つとしている。入居時と誕生日は好きな物を用意し提供している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食、摂取量や様子を観察し記録している。摂取状況に合わせ、食材の大きさ、形、形状など個々に合わせ、準備し提供している。水分が取りにくい方が多いので、コンスタントに摂れるよう、提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行っている。自分でブラッシング後、職員が確認を兼ねて介助しブラッシングを行っている。義歯は夜にははずし、ポリドントにつけている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々に合わせたトイレ誘導を行っている。夜間も気持ちよく排泄できるよう、トイレ誘導やポータブルトイレを設置し誘導している。</p>	<p>排泄は個別に日誌に記入し状態を観察している。尿意、便意の無い方は、定期的にトイレに誘導し汚れる前にトイレで排泄ができるように工夫している。夏の気温が高い時期に紙パンツから布の下着に変更し改善に繋がった実例がある。日頃から体操等を取り入れトイレに行ける筋力の維持にも努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便チェック表で排便状況を確認している。散歩など運動を心掛け、起床時に牛乳を飲用しながら、できる限り自然排便があるよう取り組んでいる。それでも困難な場合には、家庭医より緩下剤の処方を受け、たっぷりの水分で服用して頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>日曜日以外は、毎日入浴できる。最低でも週3回は入浴して頂いている。湯温は本人に合わせて調整し、季節に合わせてしょうぶ湯や柚子湯を楽しんで頂いている。体調に合わせて清拭やシャワー浴をしている。</p>	<p>自宅で生活していた時と同じように、夕方から入浴を実施している。入浴が好きな方は、希望があれば週3日以外でもお風呂に入る事が出来る。湯温は一人ひとりの好みに合わせ、必要時は湯を張り替える等、個々の希望に合わせた支援が出来るように努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>定期的にシーツ交換と布団干し をし、気持ちよく眠れるように している。室温の調整を行い、 今の時季は個々に合わせ、湯 たんぽなどで布団や足元を温 めている。昼食後には一時間程 度午睡して頂いている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>薬の説明書にて理解している。 服用時には名前、日にちを声 を出して確認し服薬介助してい る。臨時薬処方時には服用後 は特に注意し観察している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの得意な事、でき る事を把握しその力が発揮でき るよう関わっている。日頃の 会話の中で、食べたいおやつ や献立を聞き、取り入れている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。</p>	<p>体調や天候に合わせて散歩や 買い物に出かけていたが、今 年度はコロナウイルス感染予 防の為、人と会わないように 散歩をし、買い物には出か けていない。</p>	<p>マスクを着用し、感染症の予 防を行いながら少人数で週に 1度程度は事業所の周辺を散 歩している。以前は週に2回 程度、嗜好品の購入に行っ ていたが、昨年からは外出の 自粛を行っている為、ペ ランダで外気浴をしたり、 新幹線を眺めたりして過 ぎしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて 、お金を所持したり使えるよ うに支援している。</p>	<p>家族より預かり、買い物時に 持って頂いている。日頃は紛 失しないよう職員が預り金 ノートを作成し管理してい る。定期的に家族に確認して 頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望時にはホームの電話を使用して話をして頂いている。携帯電話を持たれている方もいる。手紙の希望があれば、投函の手伝いをしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>カーテンを使用し強い日差しが入らないようにし、壁や床の汚れなどすぐ拭き取るようにしている。寒さや暑さはエアコンやファンヒーターで調節し、空気の乾燥時には加湿器を居室ごとに設置している。季節に合わせ壁画や花を飾っている。</p>	<p>感染症予防の為のマニュアルに則し、日常の清掃の他に、消毒や換気を行っている。リビングには利用者と職員で制作した貼絵や生花を飾り、季節を感じる事が出来る。エアコンの他にガスファンヒーターを併用し共用部の室温を調整し、換気を行いながらも快適に過ごせるように工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居室は個室になっており、ソファやテーブルなどそれぞれで過ごされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使われていた馴染みの家具や飾り物を持参して頂き、居室作りをしている。仏壇や鏡台、人形など思い思いの品を持ち込まれている。</p>	<p>居室の設備は、ベッド、照明器具、エアコン、カーテンが基本だが、希望により筆筒等も借りる事が出来る。入居時は、新しい物を買わずに今まで使っていた物を持参してもらうようお願いしている。週に1度シーツ交換を行い、利用者と職員が一緒に掃除を実施して環境衛生にも配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりを設置しバリアフリーになっている。自分の部屋に目印を付け、わかるようにしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームよってきんさい矢賀

作成日 令和3年4月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議のメンバーや内容を充実させたい。	運営推進会議の充実を図る。	会議内容を検討し、工夫する。消防や警察、地域に関わりのある方へ参加をお願いする。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。